

## 2. 地域の概況

### 2.1 地形・地勢

さっぽろ連携中枢都市圏の12市町村の位置・面積や標高、土地利用状況は以下のとおりである。

#### (1) 位置・面積

当地域は、北海道の西部に位置する石狩管内（石狩振興局管内）の全8市町村に、隣接する後志管内（後志総合振興局管内）の小樽市と空知管内（空知総合振興局管内）の岩見沢市、南幌町、長沼町を加えた12市町村で構成され、総面積は約4,515 km<sup>2</sup>（全道の約5%）である。

本計画において、当地域内のエリアは、札幌市を中心に、小樽方面、北東方面、南東方面、石狩方面、当別方面の5つの方面に大別する。

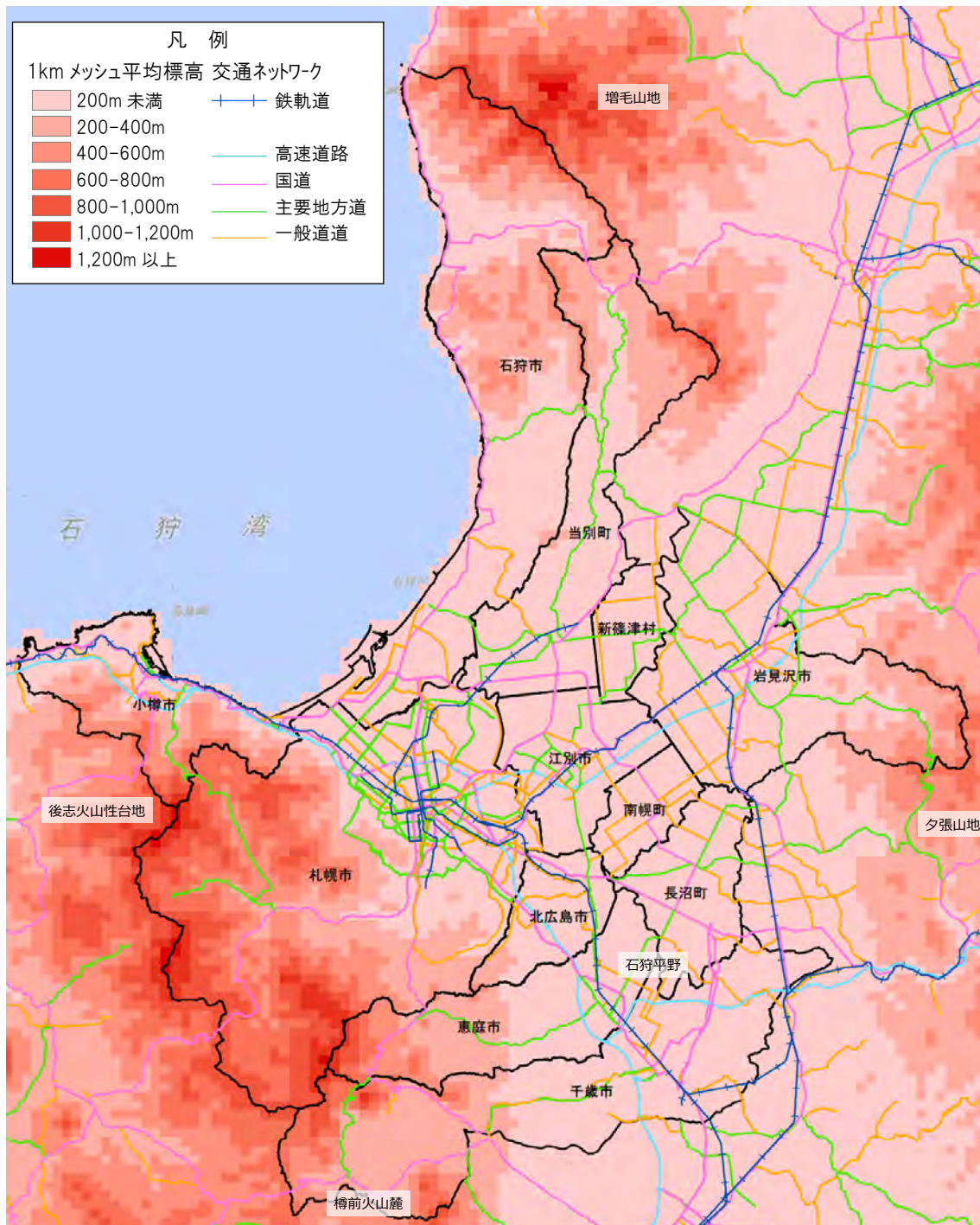


資料：令和4年全国都道府県市区町村別面積調（10月1日時点）（国土地理院）  
<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm> をもとに作成

図 2-1 さっぽろ連携中枢都市圏の位置・面積

## (2) 標高

当地域は、増毛山地、夕張山地、後志火山性台地及び樽前火山麓に囲まれており、札幌市や小樽市、千歳市、恵庭市、石狩市等で一部に標高の高い区域があるが、各市町村の市街地を含むほとんどの区域が標高 200m 以下の低地部（石狩平野）である。



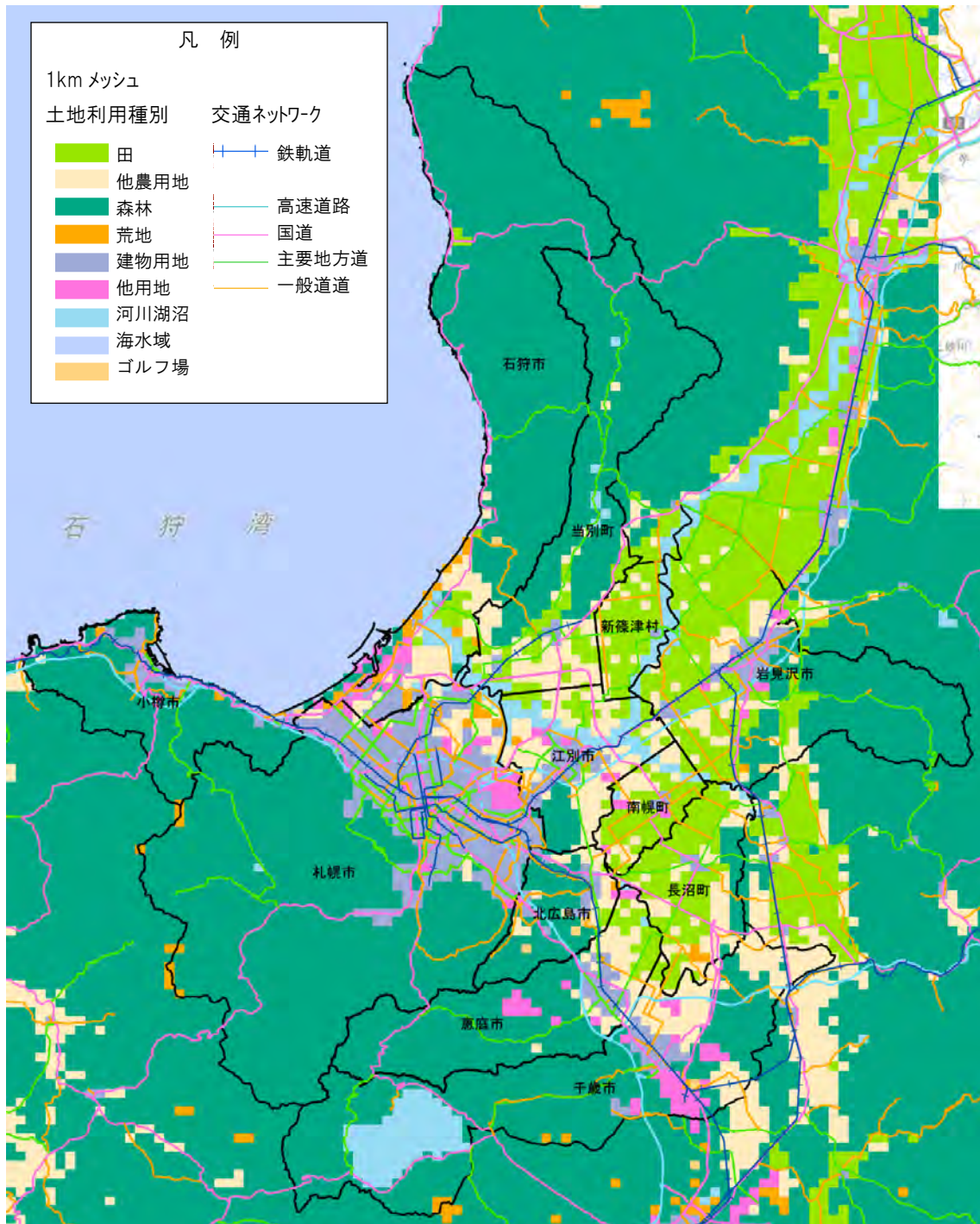
資料：国土数値情報（標高・傾斜度 3 次メッシュ）をもとに作成

図 2-2 さっぽろ連携中枢都市圏の標高



### (3) 土地利用状況

当地域の建物用地（市街部）は、札幌市に集中しているほか、各市町村の中心部にも分布している。また、札幌市・小樽市・千歳市・恵庭市・北広島市の各市内南西部や石狩市内・当別町内の北部、岩見沢市内の東部は森林が占め、新篠津村・南幌町・長沼町は全域に田や他農用地が広がっている。



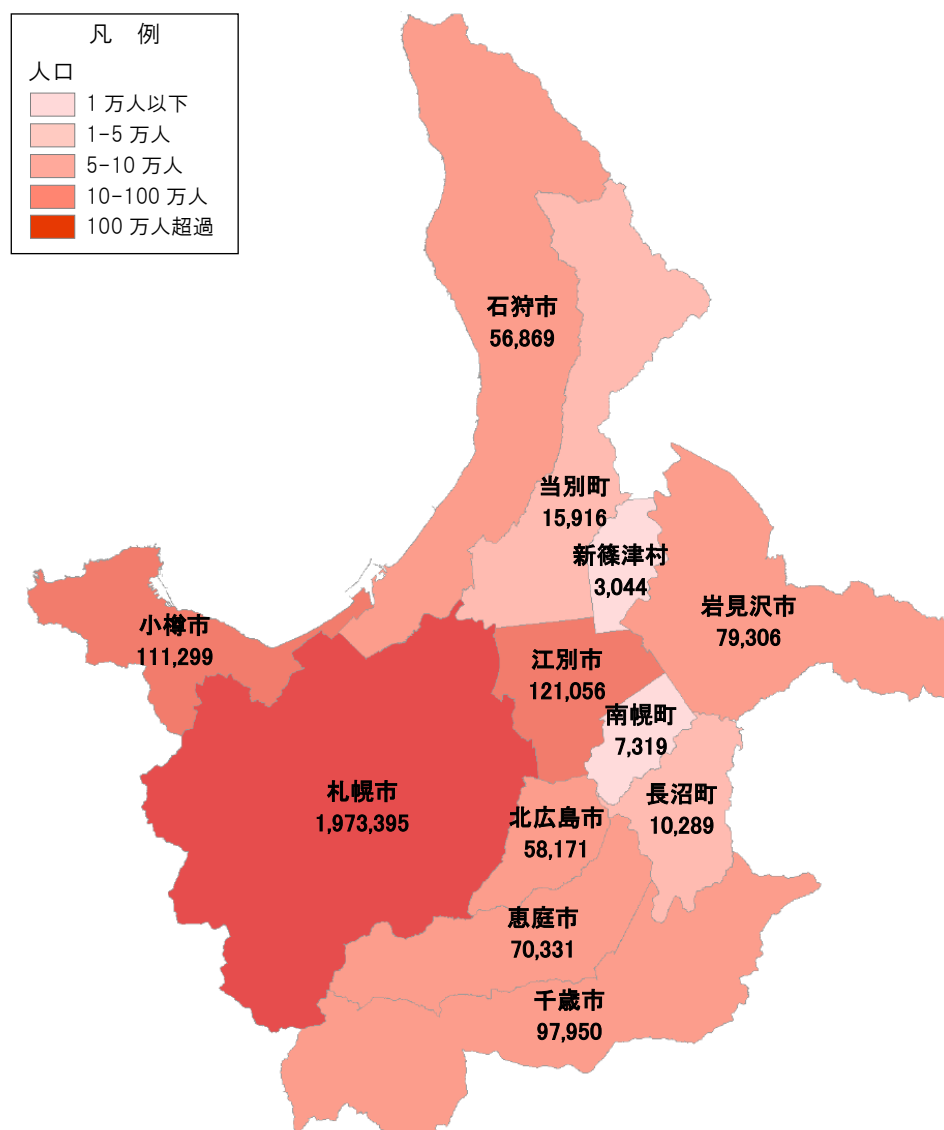
資料：国土数値情報（土地利用 3 次メッシュ）【各メッシュの最大面積の土地利用種別を表示】をもとに作成

図 2-3 さっぽろ連携中枢都市圏の土地利用状況

## 2.2 人口分布・推移

### (1) 全人口の分布・推移

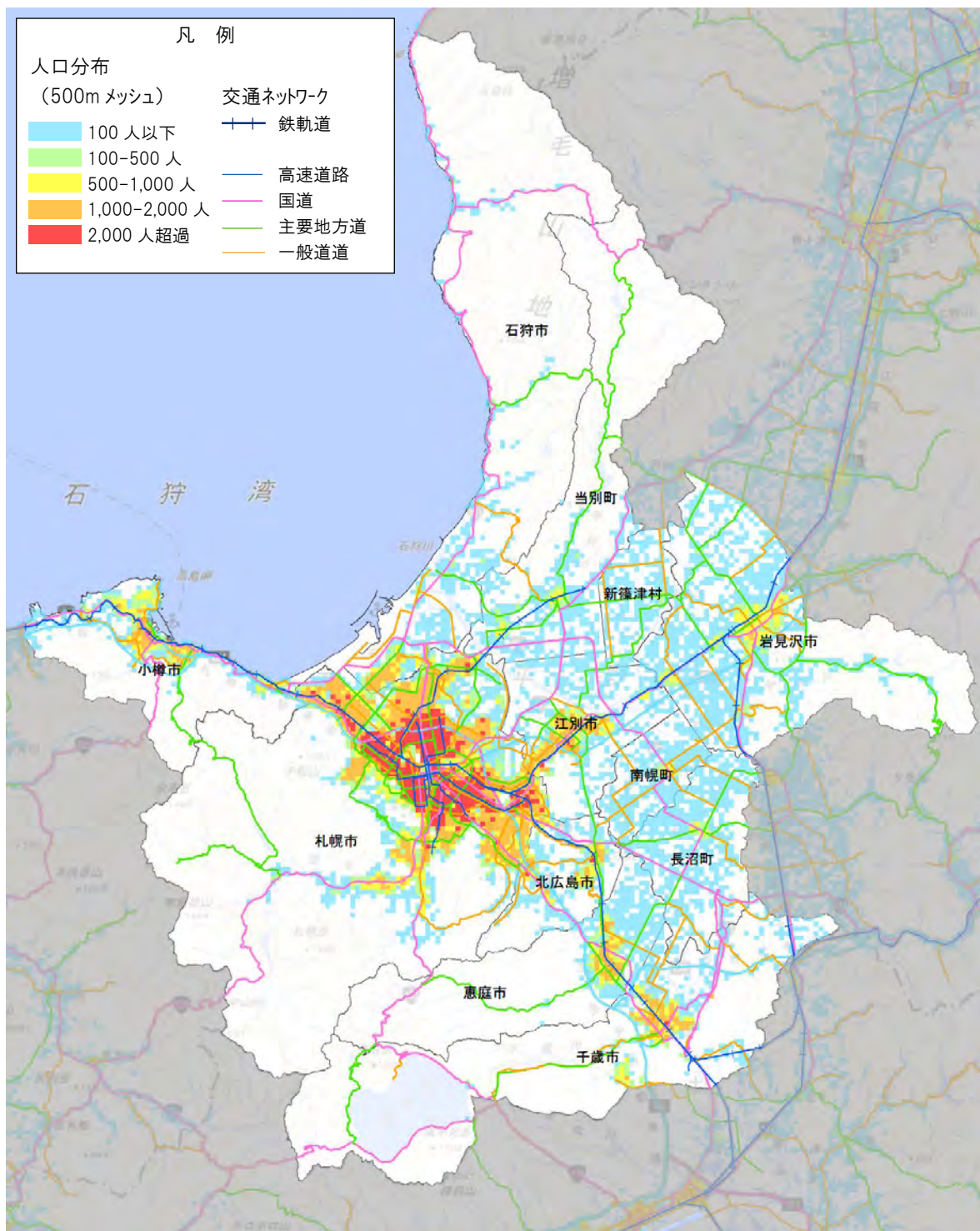
当地域の総人口約 260 万人（2020（令和 2）年）のうち、中核都市の札幌市に約 197 万人、中核都市群の小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市に計約 59 万人が集中し、残りの 4 町村に約 4 万人が分布している。



資料：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>) をもとに作成

図 2-4 市町村毎の人口

500m メッシュ人口を見ると、中核都市の札幌市における鉄軌道沿線の地域を中心に人口 2,000 人超過のエリアが集中し、中核都市群の 7 市は、中心部等に人口 1,000 人超過のエリアがある。その他の 4 町村は、人口 500 人超過や 100 人超過のエリアが僅かにあるが、主に人口 100 人以下のエリアが広く分布している。

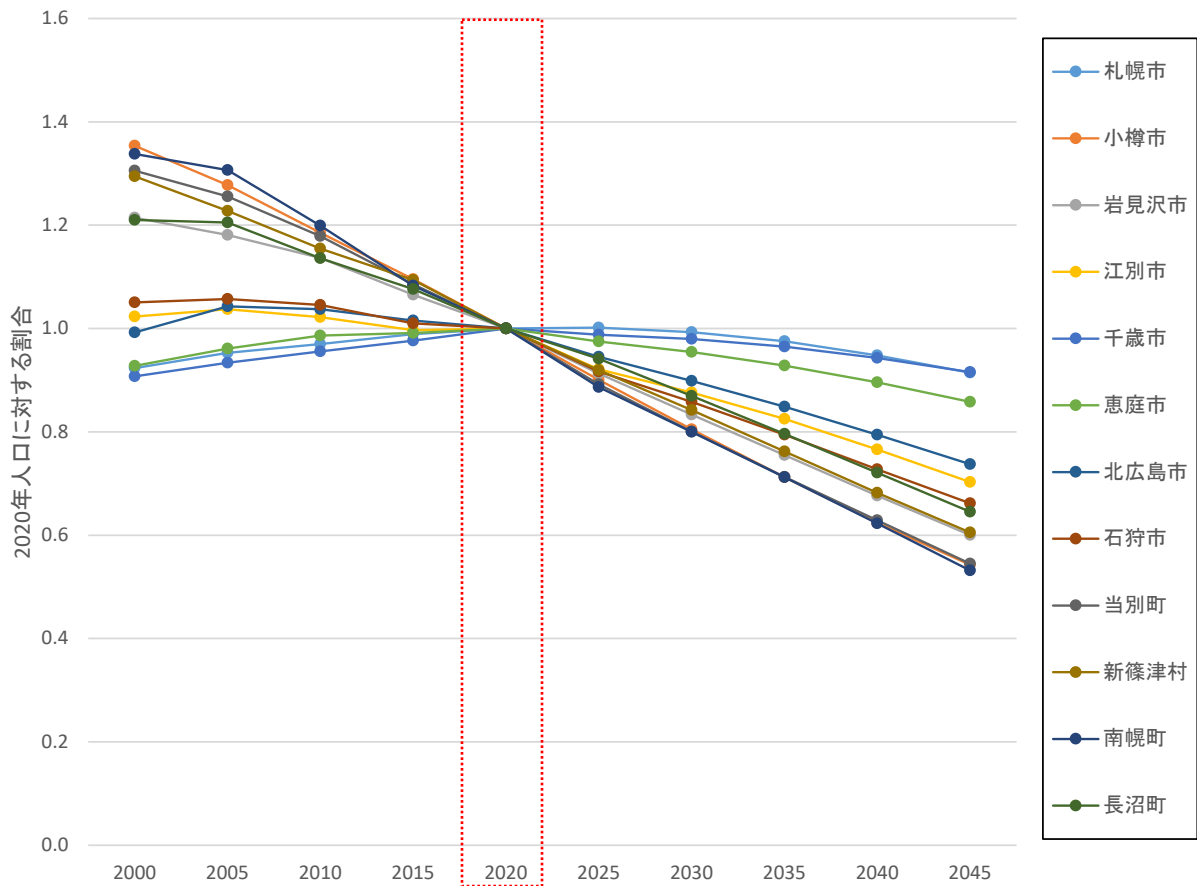


資料：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>) をもとに作成

図 2-5 人口分布（500m メッシュ人口）



各市町村の人口は、札幌市、千歳市及び恵庭市は2020（令和2）年まで増加傾向で推移しているが、それ以外は減少傾向で推移している。今後はすべての市町村で減少が続くことが推計されている。なお、札幌市、千歳市及び恵庭市は他の自治体に比べて減少がなだらかである。

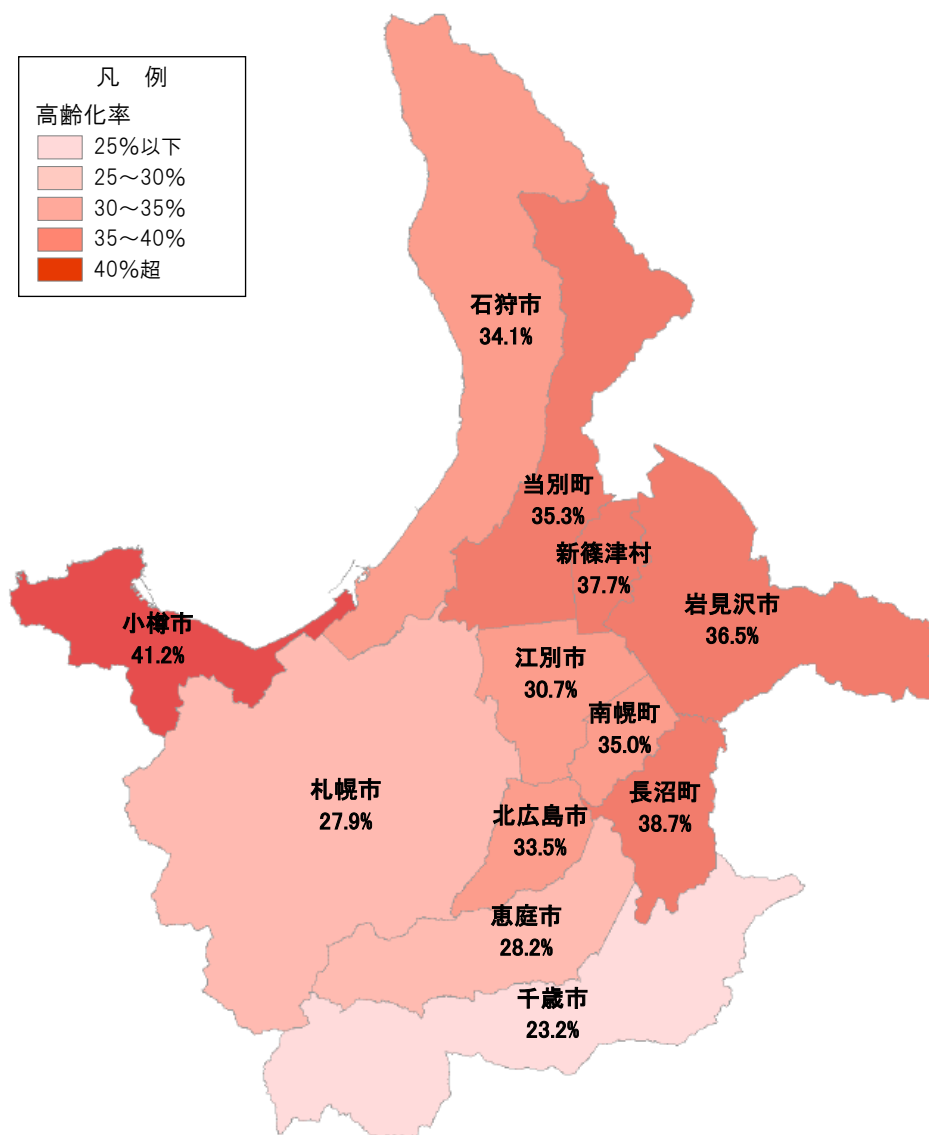


資料：平成12年～令和2年国勢調査（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp/>）、日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別の推計結果（国立社会保障・人口問題研究所）（<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>）をもとに作成

図 2-6 市町村毎の人口推移【2020（令和2）年人口に対する割合】

## (2) 高齢者人口の分布・推移

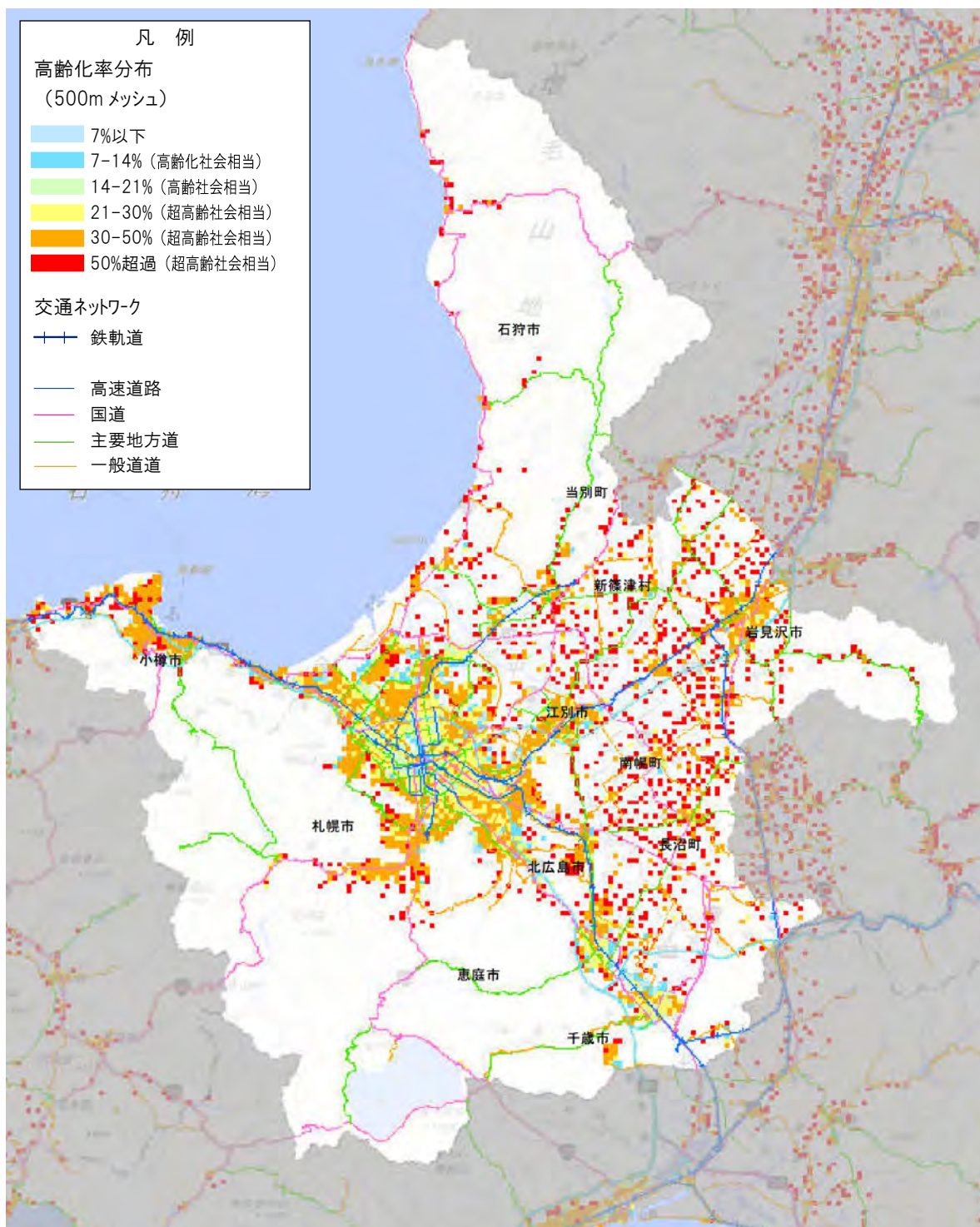
各市町村の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、当地域で最も低い千歳市が23%となっており、全ての市町村が超高齢社会（高齢化率21%超過）に達している。最も高齢化率が高いのは小樽市の41%である。



資料：令和2年国勢調査（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp/>）をもとに作成

図 2-7 市町村毎の高齢化率

500m メッシュ毎の高齢化率の分布を見ると、札幌市や千歳市、恵庭市、石狩市の中心部等で高齢化率が低いエリアが分布しており、当地域の中心部は 30～50%のエリアが多く、50%超過のエリアは、郊外部を中心に分散して存在している。



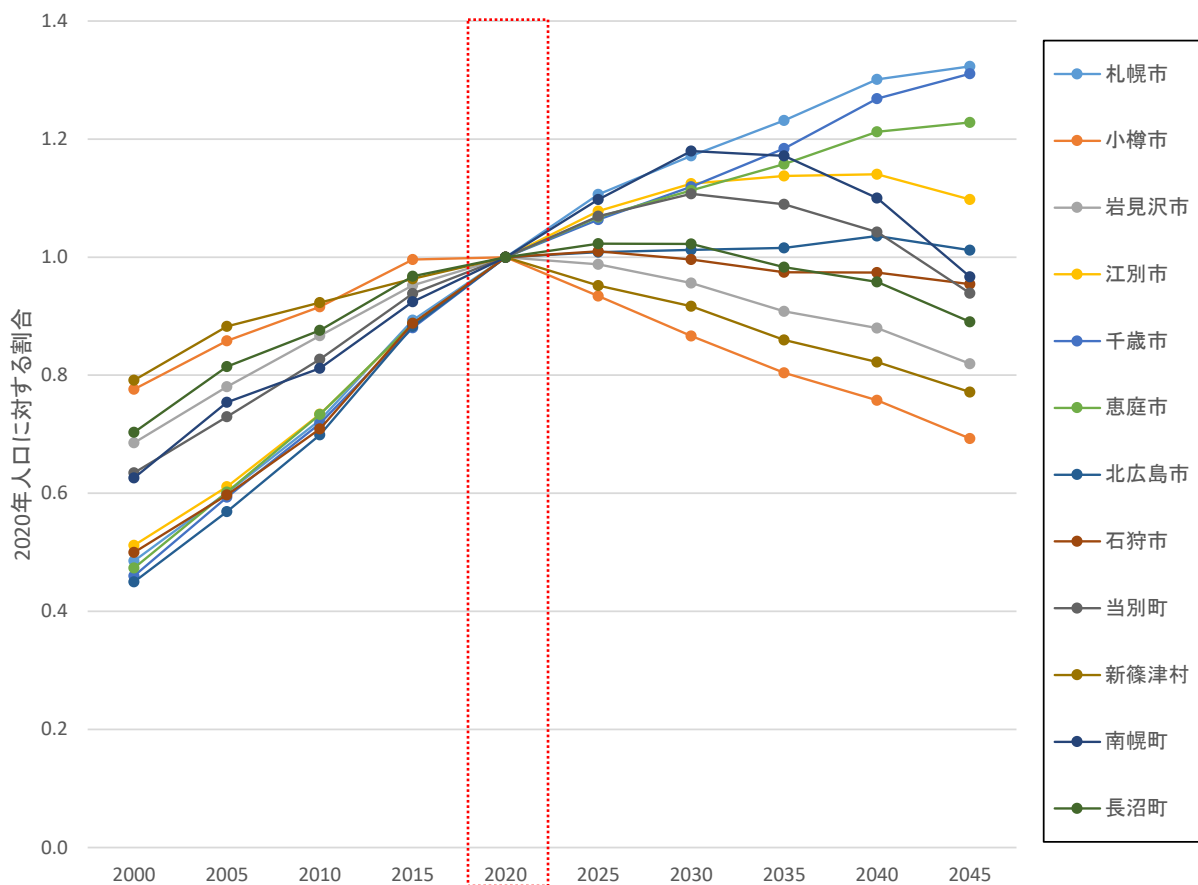
資料：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>) をもとに作成

図 2-8 高齢化率分布（500m メッシュ毎の高齢化率）



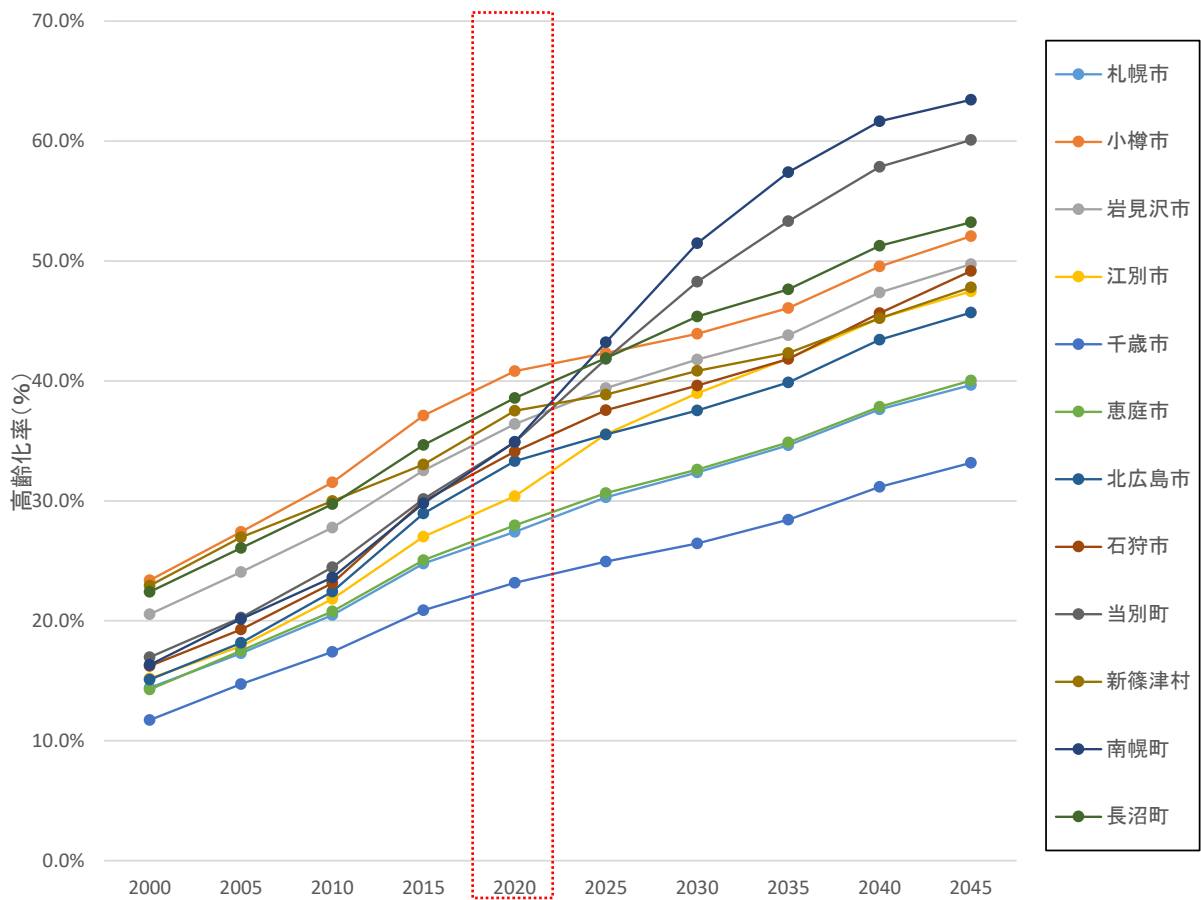
高齢者数は、全市町村において、2020（令和 2）年まで増加傾向で推移しており、札幌市・千歳市・恵庭市は今後も増加が続き、北広島市はほぼ横ばい、江別市は 2040（令和 22）年をピークに減少、当別町・南幌町は 2030（令和 12）年をピークに減少、石狩市・長沼町は 2025（令和 7）年をピークに減少、小樽市・岩見沢市・新篠津村は 2020（令和 2）年をピークに減少していくことが推計されている。

一方、高齢化率は全ての市町村において、増加が続くことが推計されており、特に当別町と南幌町は大きく増加することが推計されている。



資料：平成 12 年～令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>)、日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）市区町村別の男女・年齢（5 歳）階級別の推計結果（国立社会保障・人口問題研究所）(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 2-9 市町村毎の高齢者人口推移【2020（令和 2）年人口に対する割合】

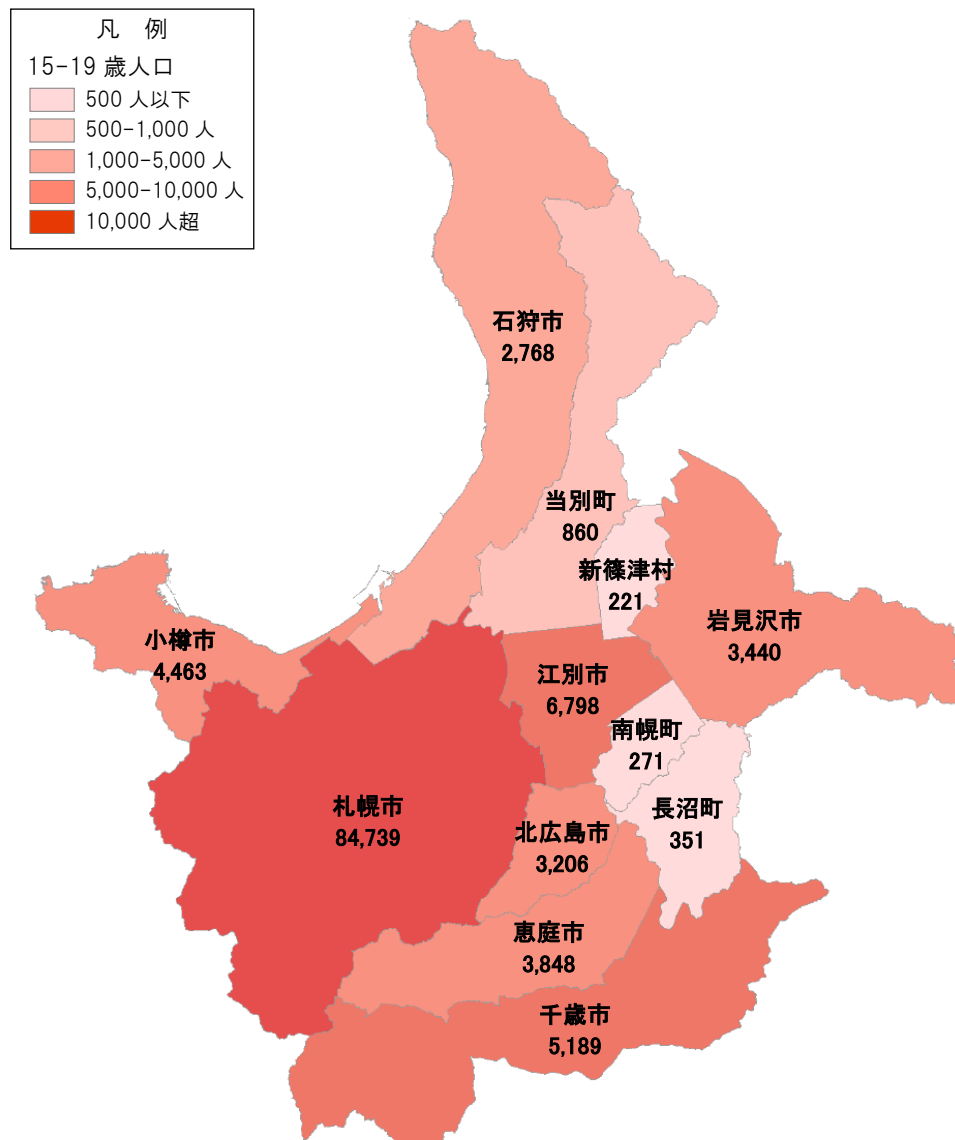


資料：平成 12 年～令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>)、日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）市区町村別の男女・年齢（5 歳）階級別の推計結果（国立社会保障・人口問題研究所）(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 2-10 市町村毎の高齢化率推移

### (3) 15-19 歳人口の分布・推移

高校生を含む 15-19 歳人口については、全人口と同様、中核都市の札幌市が最も多く、次いで、中核都市群の江別市、千歳市、小樽市、恵庭市、岩見沢市、北広島市、石狩市が多くなっている。

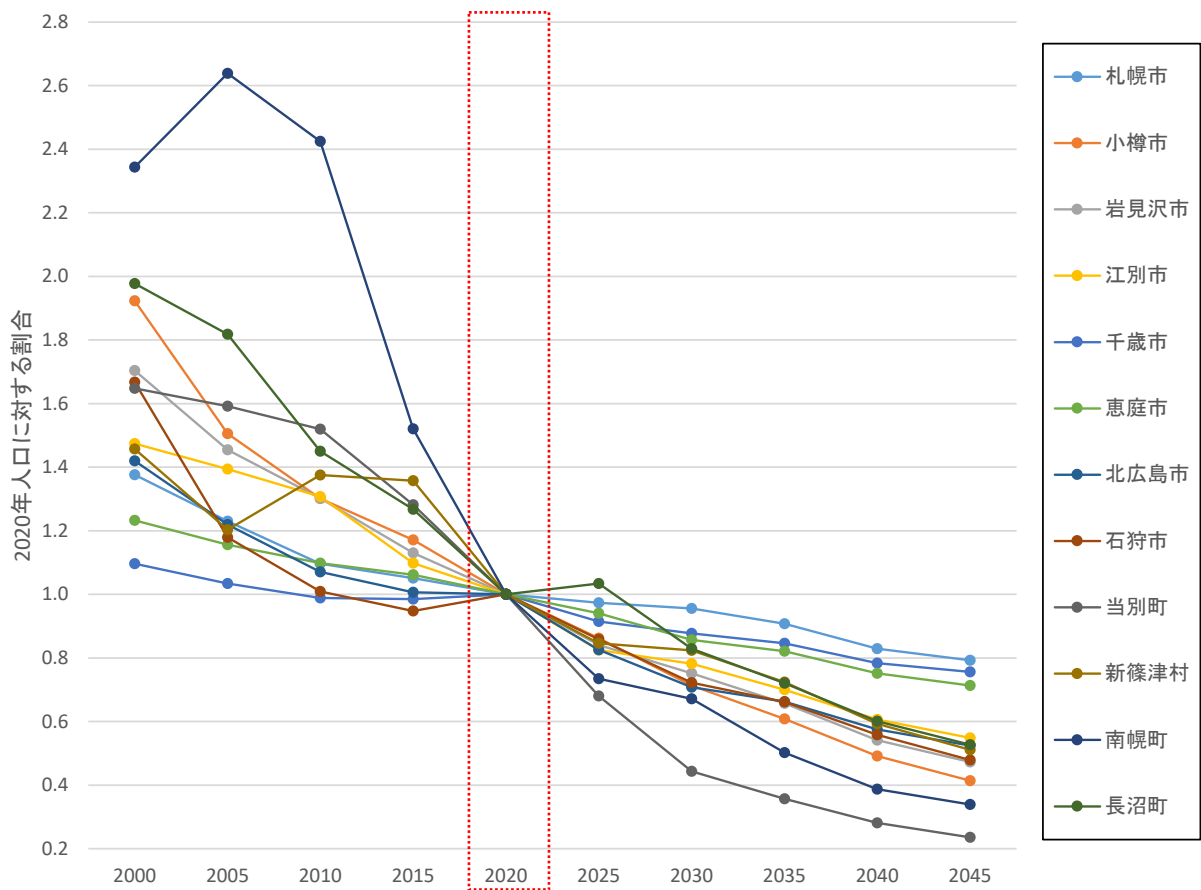


資料：令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>) をもとに作成

図 2-11 市町村毎の 15-19 歳人口



15-19 歳人口の推移を見ると、全ての市町村において、2020（令和 2）年まで概ね減少傾向で推移しており、今後も減少が続くことが推計されている（長沼町のみ 2025（令和 7）年に一旦増加するが、その後は 2020（令和 2）年を下回ることが推計されている）。

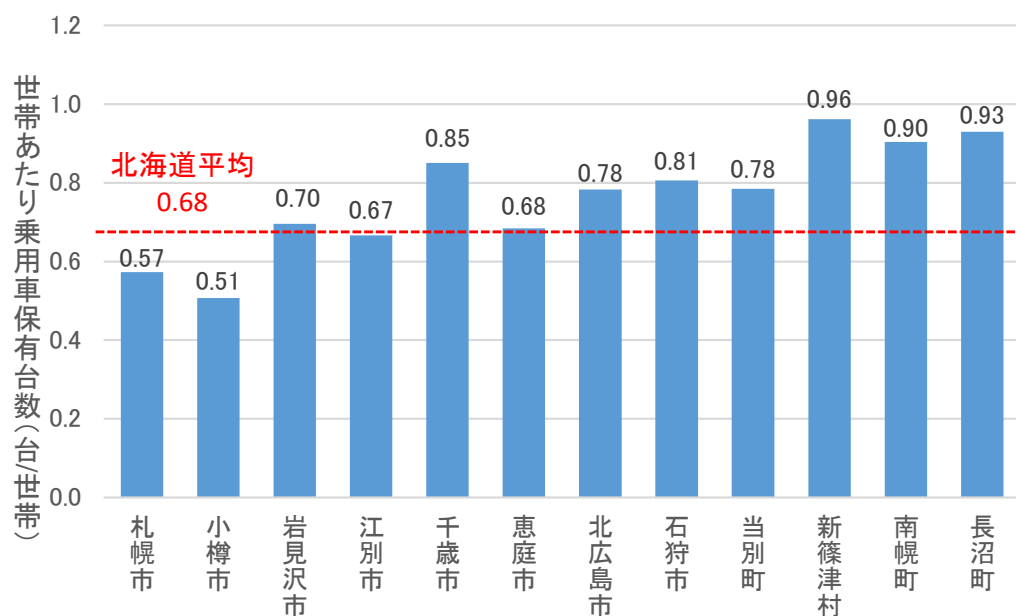


資料：平成 12 年～令和 2 年国勢調査（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/>)、日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）市区町村別の男女・年齢（5 歳）階級別の推計結果（国立社会保障・人口問題研究所）(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成

図 2-12 市町村毎の 15-19 歳人口推移【2020（令和 2）年人口に対する割合】

## 2.3 世帯当たりの乗用車保有状況

当地域の市町村における世帯当たり乗用車保有台数は、新篠津村、長沼町、南幌町、千歳市、石狩市、当別町、北広島市の順で高く、北海道平均を下回るのは、札幌市、小樽市、江別市の3市のみである。



資料：市町村別保有車両数年報（令和3年3月末現在）（北海道運輸局）  
([https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/touroku/04\\_siryoutoukei/toukei.html](https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/touroku/04_siryoutoukei/toukei.html)) をもとに作成

図 2-13 市町村毎世帯当たり乗用車保有台数

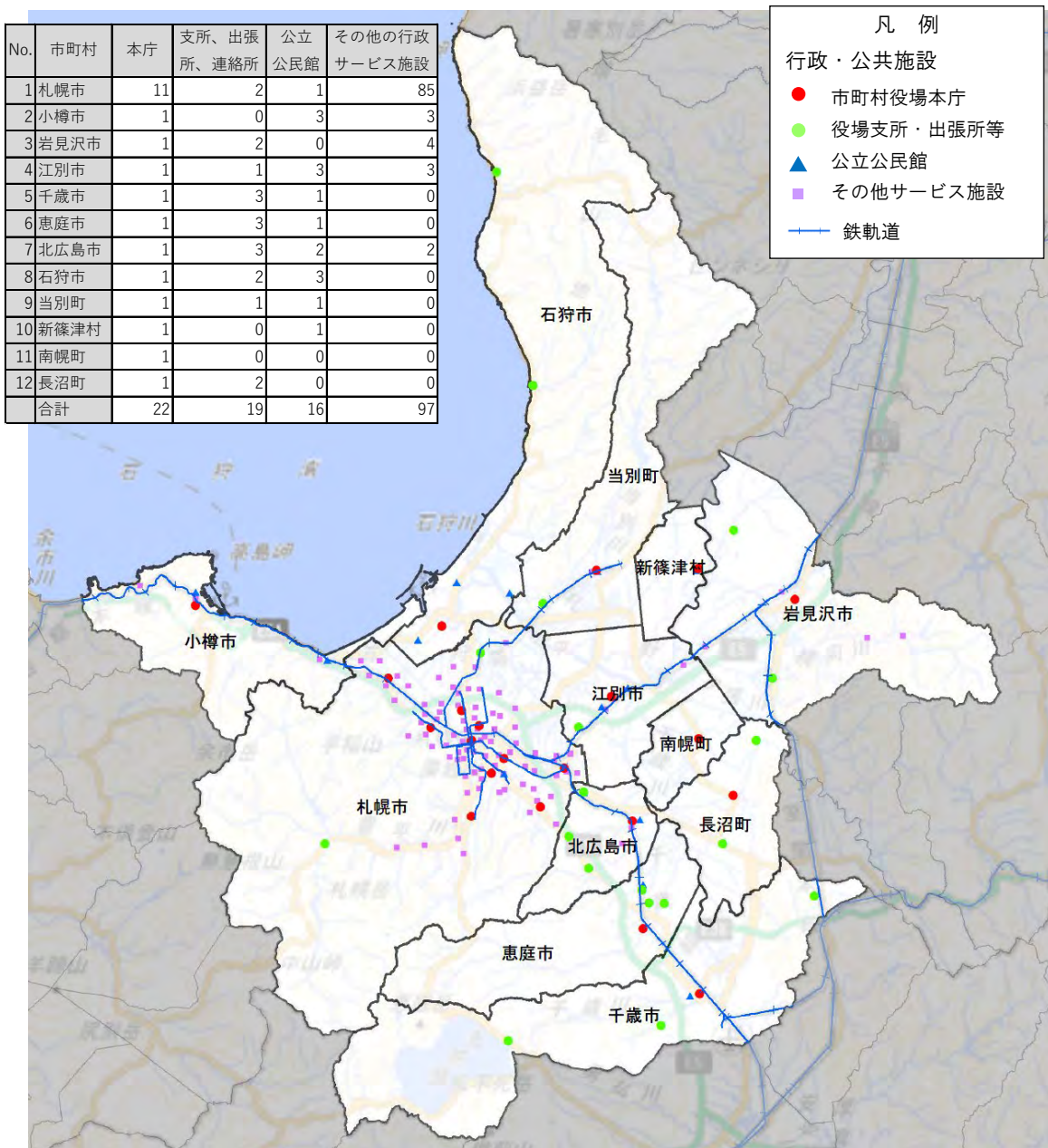
## 2.4 主要施設

地域住民の日常生活の目的地となる行政施設や医療施設、教育施設、商業施設等の分布を以下に整理する。

### (1) 行政施設

当地域の市町村役場は、札幌市は本庁 11 箇所、それ以外の市町村は本庁 1 箇所に加え、小樽市、新篠津村及び南幌町以外の市町村には、支所や出張所が各 1～3 箇所ある。

公立公民館は、岩見沢市、南幌町及び長沼町以外の市町村において、各 1～3 箇所立地している。



資料：国土数値情報（市町村役場等及び公的集会施設）をもとに自治体に確認

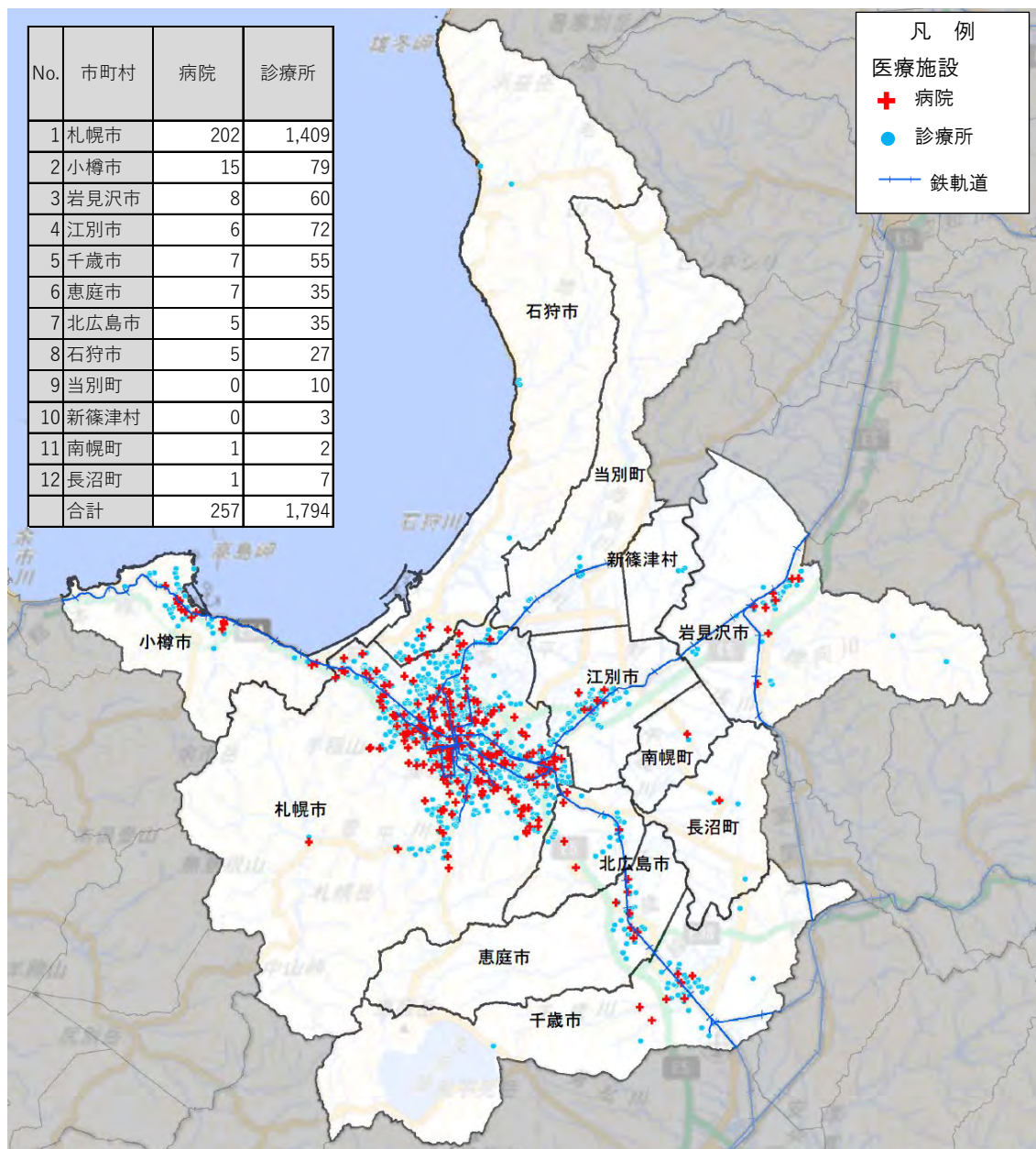
図 2-14 さっぽろ連携中枢都市圏の行政施設



## (2) 医療施設

当地域の病院（病床 20 床以上）は、札幌市に 202 箇所が集中しており、札幌市以外では、小樽市に 15 箇所、岩見沢市に 8 箇所、千歳市及び恵庭市に各 7 箇所、江別市に 6 箇所、北広島市及び石狩市に各 5 箇所、南幌町及び長沼町に各 1 箇所ある。

当別町及び新篠津村は、診療所はあるものの病院はない。



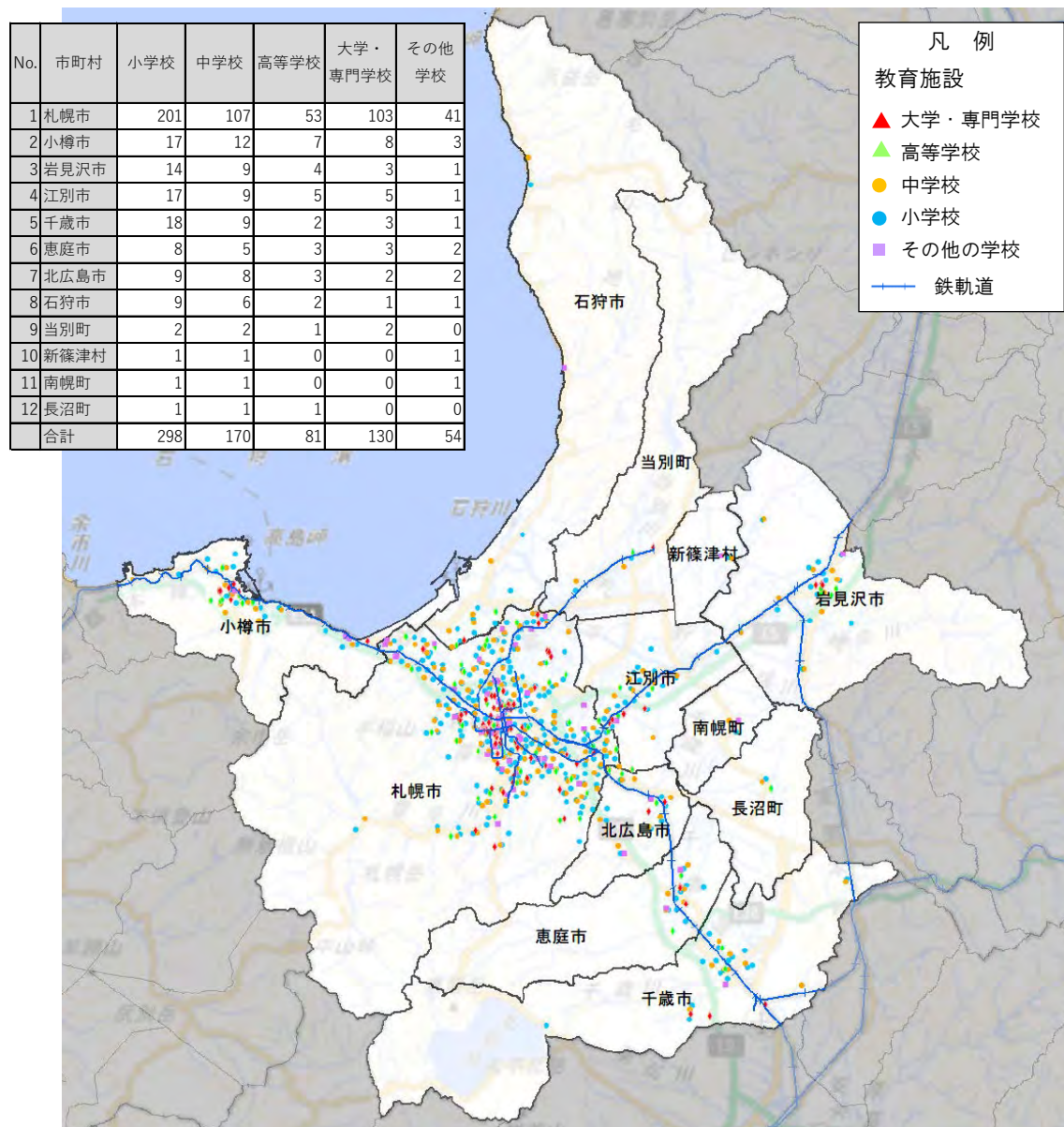
資料：国土数値情報（医療機関）をもとに自治体に確認

図 2-15 さっぽろ連携中枢都市圏の医療施設

### (3) 教育施設

当地域の高等学校は、札幌市に 53 校が集中しており、札幌市以外では、小樽市に 7 校、江別市に 5 校、岩見沢市に 4 校、恵庭市及び北広島市に各 3 校、千歳市及び石狩市に各 2 校、当別町及び長沼町に各 1 校がある。

新篠津村は高等学校がなく、南幌町も北海道南幌高等学校が 2023（令和 5）年 3 月に閉校したため高等学校がなくなった。



資料：国土数値情報（学校）をもとに自治体に確認

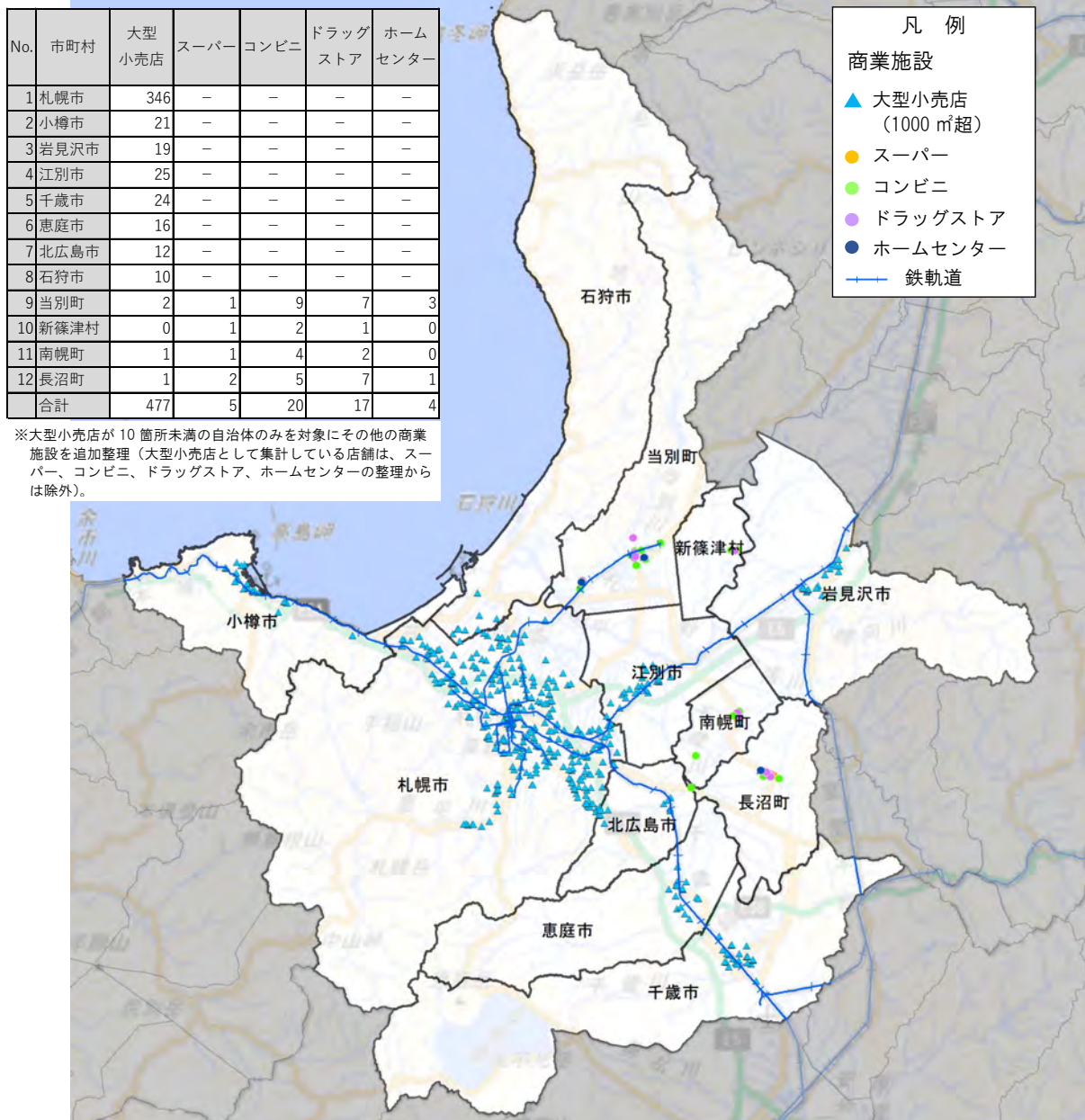
図 2-16 さっぽろ連携中枢都市圏の教育施設



#### (4) 商業施設

当地域の大型小売店（店舗 1,000 m<sup>2</sup>超）は、新篠津村以外の市町で人口の多いエリアを中心に立地している。

大型小売店のない新篠津村と立地数が少ない当別町、南幌町及び長沼町においても、スーパー、コンビニ、ドラッグストアが各 1 箇所以上あり、当別町、南幌町及び長沼町にはホームセンターもある。



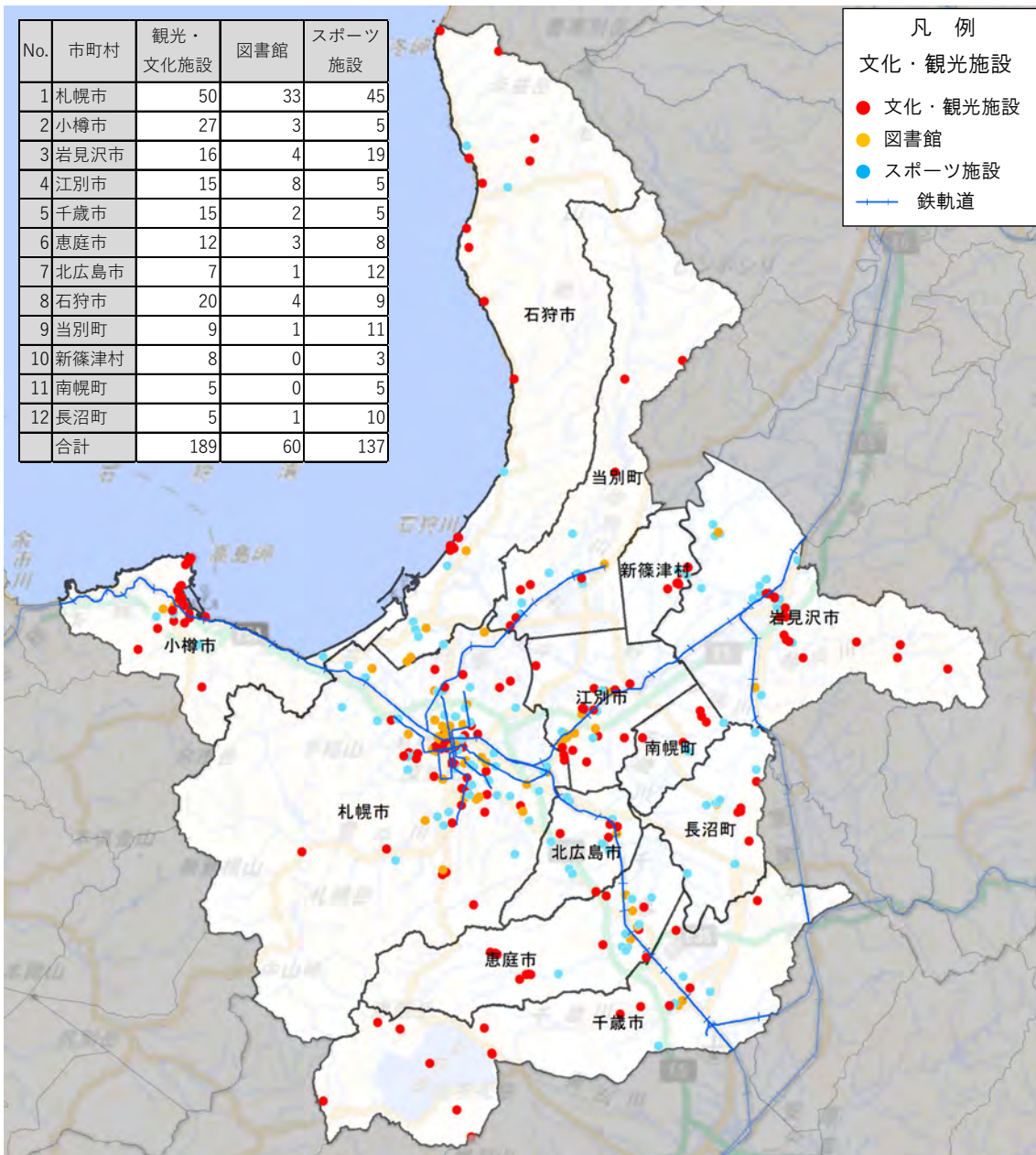
資料：全国大型小売店総覧、iタウンページをもとに自治体に確認

図 2-17 さっぽろ連携中枢都市圏の商業施設



## (5) 文化・観光施設

当地域の文化・観光施設は、各市町村とも広い範囲に複数が分布している。図書館は新篠津村及び南幌町以外の市町で1箇所以上あり、スポーツ施設は各市町村に複数ある。

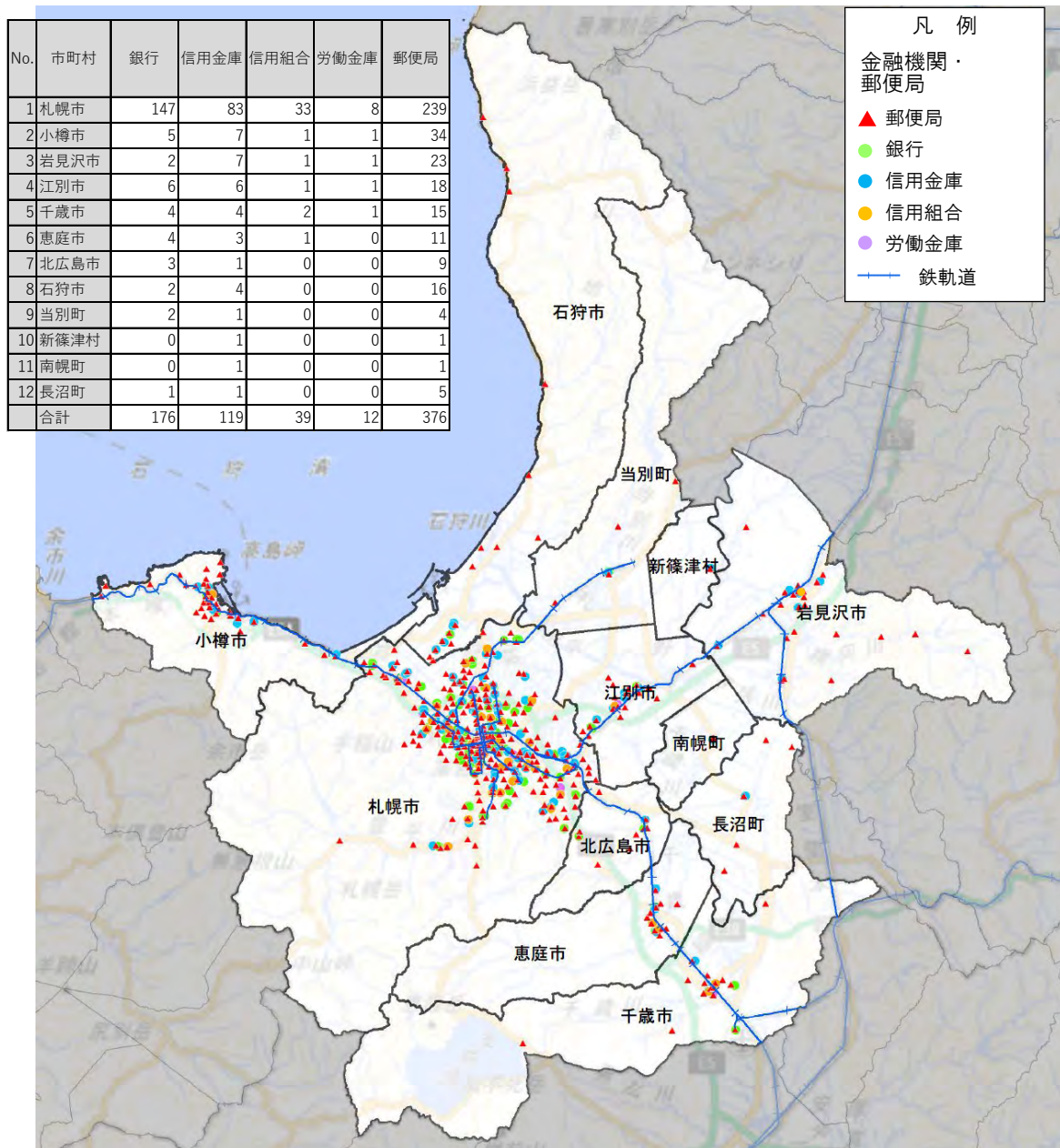


資料：国土数値情報（文化施設）、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンをもとに自治体に確認

図 2-18 さっぽろ連携中枢都市圏の文化・観光施設

## (6) 金融機関・郵便局

当地域の金融機関は、新篠津村及び南幌町以外の市町に銀行が立地しており、信用金庫及び郵便局は全市町村に立地している。



資料：国土数値情報（郵便局）、iタウンページをもとに自治体に確認

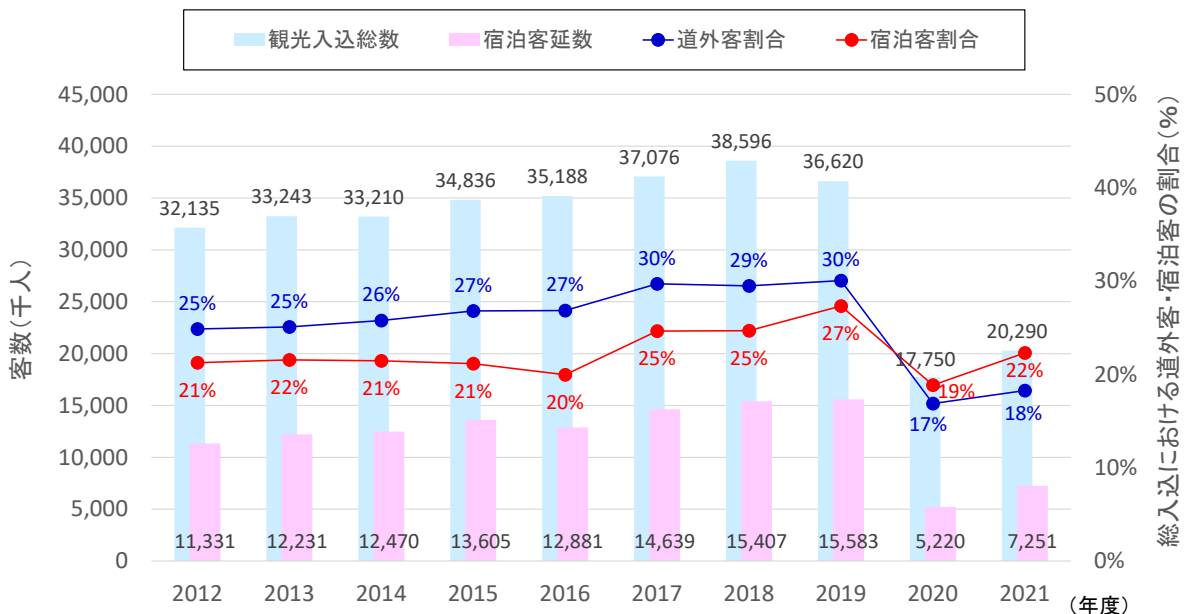
図 2-19 さっぽろ連携中枢都市圏の金融機関・郵便局

## 2.5 観光入込動向

### (1) 観光入込客数

当地域の観光入込客数は、2018（平成 30）年度まで増加傾向で推移を続けてきたが、2020（令和 2）年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に減少し、2021（令和 3）年度には、わずかに回復しているが、感染拡大前に比べて半分程度の状況である。

観光入込客に占める道外客の割合は、2012（平成 24）年度の 25%から 2019（令和元）年度には 30%になっていたが、2020（令和 2）年度は、17%まで低下している。宿泊客延数は、2019（令和元）年度までは増加傾向であったが、2020（令和 2）年度に大幅に減少し、2021（令和 3）年度は、2019（令和元）年度程度までの回復は見られないが、2020（令和 2）年度からは若干増加している。



資料：北海道観光入込客数調査報告書（2012（平成 24）～2021（令和 3）年度）（北海道経済部観光局観光振興課）（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>）をもとに作成

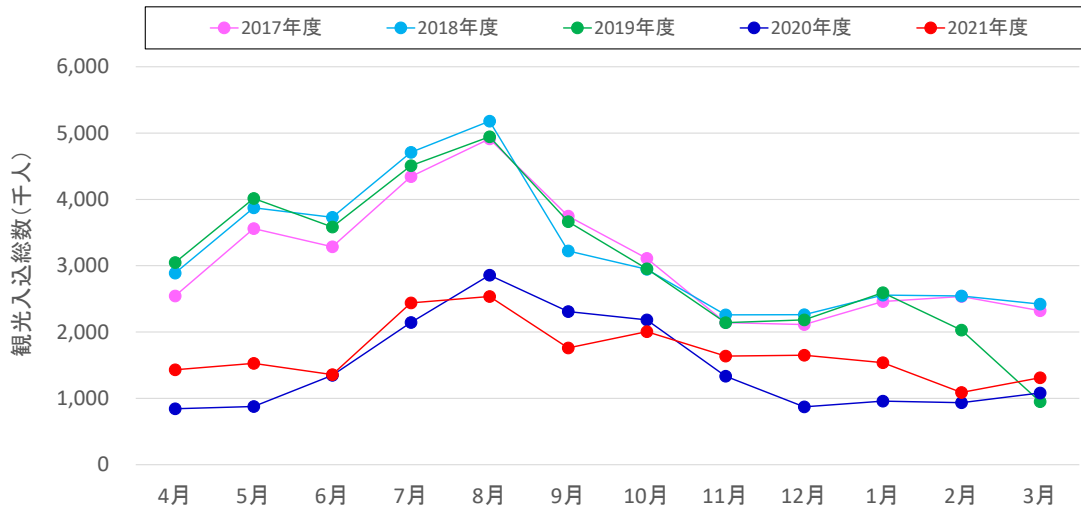
図 2-20 さっぽろ連携中枢都市圏全体の観光入込客数の推移【入込総数・宿泊客数など】



当地域の月別の観光入込客数は、夏期に多くなっており、8月が最も多く、次いで7月が多い。夏期以外では、GWがある5月や6月が多く、冬期（11～3月）は少ない。

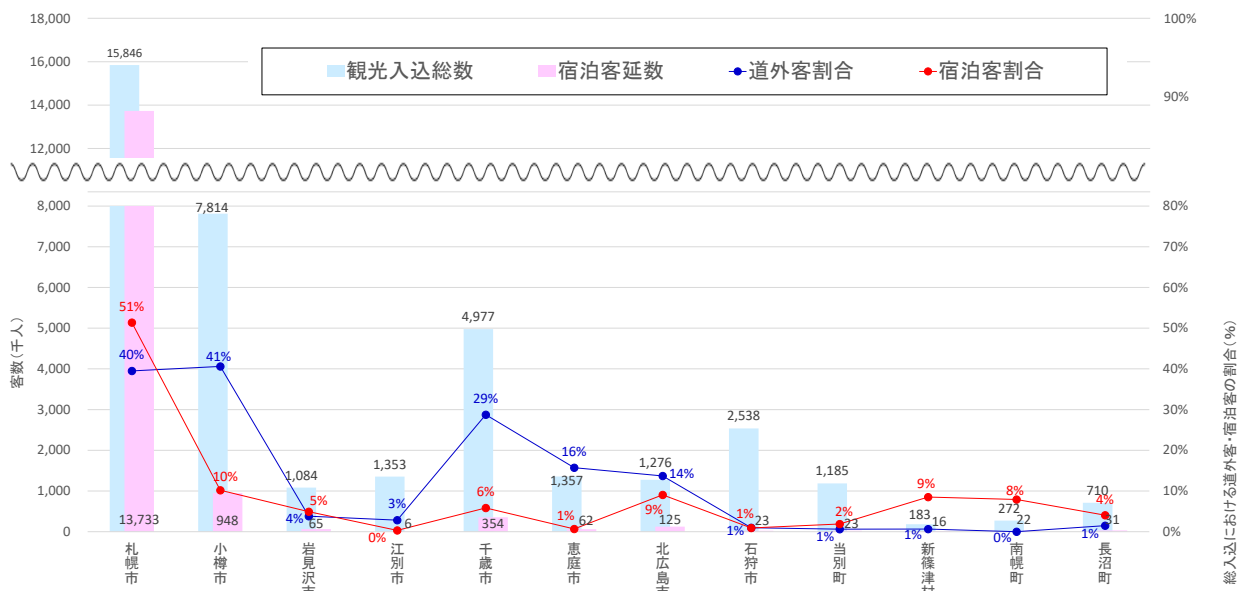
新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020（令和2）年2月以降は、観光入込客数が大幅に減少し、感染症の流行状況に応じた社会情勢により月ごとのばらつきが生じている。

2018（平成30）年度における市町村毎の観光入込客数を見ると、札幌市が最も多く、次いで、小樽市や千歳市が多くなっており、宿泊客数も同様の傾向で、これらの市は道外客の割合が高い。



資料：北海道観光入込客数調査報告書（2017（平成29）～2021（令和3）年度）（北海道経済部観光局観光振興課）（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>）をもとに作成

図 2-21 さっぽろ連携中枢都市圏全体の月別観光入込客数



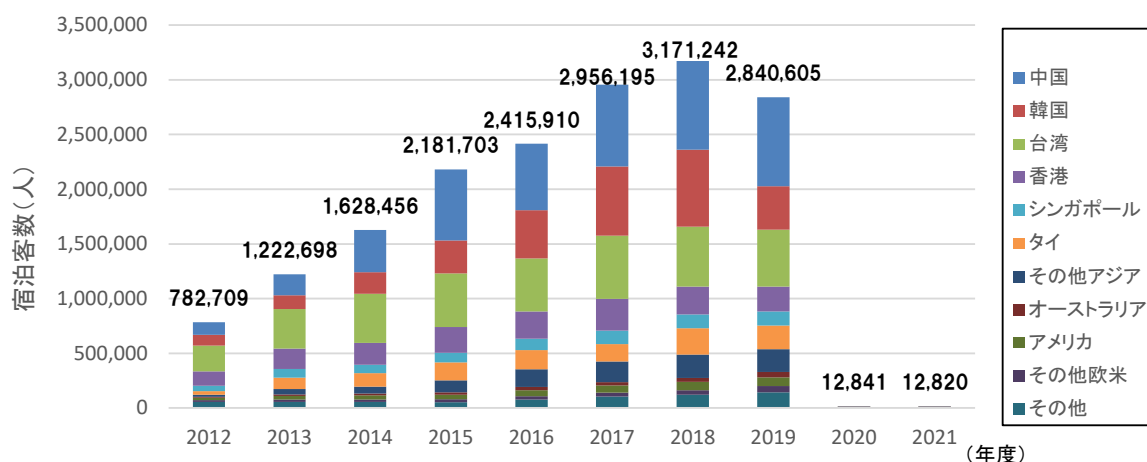
資料：北海道観光入込客数調査報告書（2018（平成30）年度）（北海道経済部観光局観光振興課）（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>）をもとに作成

図 2-22 市町村毎の観光入込客数・宿泊客数など【新型コロナウイルス感染症の感染拡大前】

## (2) 外国人宿泊者数

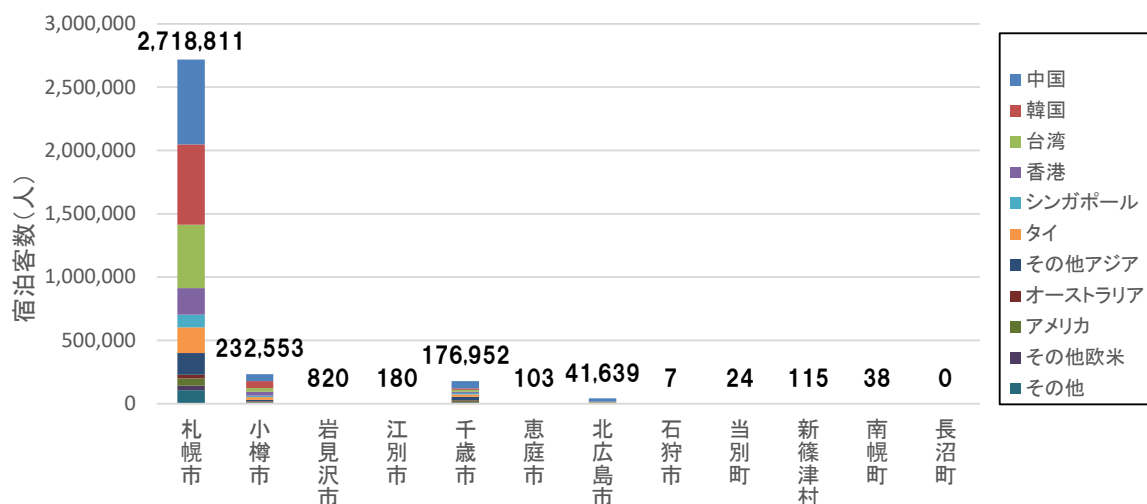
当地域の外国人宿泊者数は、2018（平成 30）年度までは順調に増加し、中国、韓国、台湾等からの来訪者が多かった。しかし、2020（令和 2）年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって大幅に減少し、2020（令和 2）年度、2021（令和 3）年度の外国人宿泊者数はピーク時（2018（平成 30）年度）の 0.4%程度である。

2018（平成 30）年度における市町村毎の外国人宿泊者数を見ると、札幌市に集中しており、次いで、小樽市や千歳市が多い。



資料：北海道観光入込客数調査報告書（2012（平成 24）～2021（令和 3）年度）（北海道経済部観光局観光振興課）（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>）をもとに作成

図 2-23 さっぽろ連携中枢都市圏全体の外国人宿泊者数の推移【国別宿泊客数など】



資料：北海道観光入込客数調査報告書（2018（平成 30）年度）（北海道経済部観光局観光振興課）（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>）をもとに作成

図 2-24 市町村毎の外国人宿泊者数【新型コロナウイルス感染症の感染拡大前】